

# 教育委員会会議録

平成24年4月16日(月)

午後1時30分 開会

午後2時53分 閉会

## 1 議事日程

別紙のとおり

## 2 出席した委員

小池高弘委員長、平石賢二委員、加古博委員、豊島半七委員、笠松和永委員  
野村道朗教育長

## 3 説明のため出席した職員

長崎栄一教育次長、岩間博学習教育部長、加古三津代生涯学習監  
杉浦慶一郎総合教育センター所長、杉浦章司総務課長、後藤由紀夫財務施設課長  
溝口正己教職員課長、伊藤良一福利課長、森繁雄生涯学習課長  
笹尾幸夫高等学校教育課長、稲垣寿義務教育課長、上田裕特別支援教育課長  
長谷川勢子健康学習課長、大野芳樹体育スポーツ課長  
安藤綾子教育企画室長、八木亨文化財保護室長  
山本雅夫総務課主幹、與語勝廣教職員課主幹、山中仁教職員課主幹  
齋藤典久高等学校教育課主幹、木下眞吾義務教育課主幹  
黒谷厚志特別支援教育課主幹  
稲葉均総務課課長補佐

## 4 委員長報告

なし

## 5 教育長報告

小池委員長が各委員に諮り、報告事項1 平成24年春の叙勲候補者の内定について及び報告事項2 公立学校教員の懲戒処分については人事案件であるため、非公開にて報告を受けることとした。

### (1) 平成24年春の叙勲候補者の内定について

非公開において報告されたため、愛知県教育委員会会議規則第16条第3項の規定により、会議録は別途作成。

### (2) 公立学校教員の懲戒処分について

非公開において報告されたため、愛知県教育委員会会議規則第16条第3項の規定により、会議録は別途作成。

### (3) 行政文書不開示決定処分取消請求事件等について

溝口教職員課長が、愛知県に対して、行政文書不開示決定処分取消請求事件2件及び自己情報不開示決定処分取消請求事件2件の訴訟提起並びに自己情報

不開示決定処分取消請求事件4件の判決言渡があったことについて報告。

小池委員長が、この県民はこれまで何件の訴訟を提起しているのか質問。

溝口教職員課長が、愛知県教育委員会に対して、平成21年11月以降63件の訴訟を提起している旨答弁。

小池委員長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

(4) 平成24年度愛知県公立高等学校入学者選抜実施結果について

笹尾高等学校教育課長が、平成24年度の公立高等学校入学者選抜実施結果について報告。

加古委員が、豊田高校普通科や加茂丘高校普通科は相当な数の第2次選抜の募集があってもなかなか集まらなかったと聞いているが、第2次選抜の欠員数について現段階でどのように解釈しているのか質問。

笹尾高等学校教育課長が、平成24年度の欠員数106人については、昨年度の欠員数177人と比較するとかなり改善されてきたと考えているが、学校によっては欠員数の補充ができていないということがあるので、今年度さらに検討してまいりたい旨答弁。

加古委員が、大学等へ提出する調査書の問題と入学者選抜の合格者発表の問題と大きな課題があったと思うが、来年度に向けて反省点を踏まえどのように取り組んでいくのか質問。

笹尾高等学校教育課長が、合格者発表については、県立高等学校長会において、原因についての説明をし、来年度に向けてチェックリスト等を作って誤りのないようにしていく旨の指導をした。大学等へ提出する調査書についても誤りのないように合わせて指導をした旨答弁。

平石委員が、海外帰国生徒選抜について、募集人員に対して志願者数、合格者数が少ないが、どのように理解すればよいか質問。

笹尾高等学校教育課長が、募集人員は最大の数を示しており、海外帰国生徒選抜の合格者が予定より少なかった場合には、一般入学の方でその分合格となる旨答弁。

小池委員長が、水産高校の倍率が高いが、昨年度も同じように高かったのか質問。

笹尾高等学校教育課長が、過去3年間の倍率は、昨年が1.92倍、一昨年在2.45倍、3年前が2.05倍となっている旨答弁。

岩間学習教育部長が、専門学科を持つ高校は就職状況が厳しいこともあり、学校としての活動を積極的に地域にアピールしようと努力している。三谷水産高校も国立大学への進学が地域の新聞で大きく報道されたことや、地域の企業との連携した取組の周知が中学校にも相当図られたことが、志願者増の1つの背景になっているのではないかと推測しており、学校の努力が間違いなくあったと考えている旨答弁。

小池委員長が、専門学科や総合学科を持つ学校が、子どもたちにとっていい選択肢になるとよいと思う旨意見。

小池委員長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

(5) 愛知県生徒指導推進協議会の協議題について

稲垣義務教育課長が、平成24年度愛知県生徒指導推進協議会の協議題「スクールカウンセラーを活用した生徒指導のあり方」について報告。

平石委員が、スクールカウンセラーの役割で特に未然防止という予防的な観点で検討するにはそれなりの時間がかかると思うが、先の見通しはどのように考えているのか質問。

稲垣義務教育課長が、スクールカウンセラーの活用について、まずは教師の担うべき部分とスクールカウンセラーが担うべき部分を明確にした上で、外部との連携、校内の組織づくりと徐々に進めていきたいと考えており、場合によっては検討を継続していくことも考えている旨答弁。

平石委員が、今回のテーマに関して実践してもらおう協力校を設定するのか質問。

稲垣義務教育課長が、スクールカウンセラーの協議会を年2回開催しており、その場での研究協議の俎上に載せていくこともできるし、国の「生徒指導・進路指導総合推進事業」の中にスクールカウンセラーを活用した事業もあるので、相互に連携しながら進めていきたいと考えている旨答弁。

加古委員が、従来のスクールカウンセラーの現場での活用を教員の意識改革に活用するという転換に受け取れるが、教員の意識改革が課題ならスクールカウンセラーとは別に教員の研修や結果的に意識改革につながるような具体的な手立てを考えるべきだと思う旨意見。

稲垣義務教育課長が、教員の意識改革とは子どもの心理的な深いところでのように理解し対応していくか教員も学んだ方がよいという意味での意識改革と捉えており、不登校を始めとする生徒指導上の問題が起きないように体制づくりを模索していこうと考えている旨答弁。

加古委員が、模索の対象は総合教育センターにおける研修の機会や内容を見直すことや、教育事務所単位での研修の場を確保することであり、学校でのスクールカウンセラーの活用の中で教員の意識改革に何らかの働きかけをしてもらうというのは少し違うように思うので、そのようなことも頭に入れて検討していただきたい。また、他県の状況を研究していくと何か参考になることもあると思うし、まずは校長を中心とした管理職の意識改革があつての教員の意識改革だと思うので、そのようなことも合わせて検討していただきたい旨要望。

小池委員長が、スクールカウンセラーの相談内容については複雑に絡んでいると思うが、何が一番多いのか質問。

稲垣義務教育課長が、不登校に関するものが一番多く、次に心身の発達に関わるもの、友人関係、家庭の問題という状況になっている旨答弁。

小池委員長が、不登校の原因がいじめであったりすると、学校側は当事者であり自分たちの側ではないという感覚を持っている親や子が結構いると思う。スクールカウンセラーが問題の間に立たなければならない立場になれるのかという意味において、学校の組織の中における立ち位置というのは非常に大切であり、問題行動を想定するときには内容によっては立ち位置の問題についても検

討していただきたい旨要望。

小池委員長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

(6) 愛知県幼児教育研究協議会の協議題について

稲垣義務教育課長が、平成24・25年度愛知県幼児教育研究協議会の協議題「小学校教育を見通した幼児期の教育を考えるー接続期における教育課程・保育課程の編成に向けてー」について報告。

加古委員が、普通の幼稚園、保育所で使える教育課程・保育課程となるよう十分視野を広げて検討をしていただきたい旨要望。

稲垣義務教育課長が、実際の幼児・児童の姿を示し、接続にかかる問題等を洗い出しながら、具体的な内容を広く検討していきたい旨答弁。

平石委員が、幼小接続において特別支援教育は重要なテーマだと思っているが、今回の協議会の中に特別支援教育の視点も入っているのか質問。

稲垣義務教育課長が、個への対応は幼小接続の大きなテーマと捉えているので、協議会の中で重要なものとして取り扱っていききたい旨答弁。

小池委員長が、小学校に入るまでに少なくともここまでは教えておいて欲しいということをはっきりさせることが重要だと思う旨意見。

豊島委員が、長期的な問題だと思うので、将来を見据えて検討をしていただきたい旨要望。

小池委員長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

(7) 平成24年度県立特別支援学校の幼稚部及び高等部の入学者選考結果について

上田特別支援教育課長が、平成24年度の県立特別支援学校の幼稚部及び高等部の入学者選考結果について報告。

加古委員が、豊川養護学校の昨年度107人という合格者数に対し、今年度の受検者72人という数はどのような事情があったのか質問。

上田特別支援教育課長が、夏休みの教育相談等で約91人という数を掴んでいたが、専門学校等への進路変更により受検者が減ったと聞いている旨答弁。

小池委員長が、今年度受検者数が減ったことは、少しは過大化の軽減につながるのか質問。

上田特別支援教育課長が、今年度の数は、数年間は緩和に影響するものと考えている旨答弁。

加古委員が、安城養護学校は想定より受検者数が増えているが、施設設備面での県のサポート等の状況はどうなっているのか質問。

上田特別支援教育課長が、安城養護学校はかつて大規模校であったが、みあい養護学校の創立により過大化が解消され、教室等については改善された向きがあるので、十分ではないが大きく心配することはないと考えている旨答弁。

小池委員長が各委員に諮り、報告事項は了承された。

6 議題及び議事の概要

小池委員長が各委員に諮り、第11号議案 平成25年度使用義務教育諸学校教科

用図書採択基準(案)については、審議会に諮る前の意思決定過程情報であるため、非公開にて審議することとした。

第10号議案 平成25年度使用県立学校(高等学校及び特別支援学校高等部)教科用図書採択の基本方針について

笹尾高等学校教育課長が、平成25年度に使用する県立学校(高等学校及び特別支援学校高等部)教科用図書採択の基本方針について請議。

加古委員が、高等学校は従来、学校単位で研究し教科書を選定することになっている。学校によっては教科の先生が少なく複数で十分な研究が難しいところもあると聞くが、研究・検討の段階における課題がどの程度あると考えているのか質問。

笹尾高等学校教育課長が、高等学校の教科書の採択については、原則各学校長が行うことになっているが、各地域で教科書の研究会を開催し、各教科1名が必ず参加し、教科書についての研究協議を進めている。それに基づいて各学校の生徒等の実態に合わせて教科書を選定することになっており、現在特に採択に関して大きな問題があるということは聞いていない旨答弁。

小池委員長が各委員に諮り、全会一致により原案どおり可決された。

第11号議案 平成25年度使用義務教育諸学校教科用図書の採択基準(案)について

非公開において審議されたため、愛知県教育委員会会議規則第16条第3項の規定により、会議録は別途作成。

7 通信及び請願

なし

8 自由討議

なし

9 その他

- (1) 開会に先立ち、小池委員長から委員の異動について紹介があり、4月1日付けで委員に就任した野村教育長から就任のあいさつがあった。
- (2) 開会に先立ち、新任事務局職員の自己紹介を行った。
- (3) 年度始めにあたり、小池委員長からあいさつがあった。